らさら○さらさらハさなノ誤ナラン　おぼしめしそとせいし給ふに、さらばたゞ本意もあり、出家にこそはあんなれとのたまはするに、さまでおぼしめす事ならばいかゞはともかくも申さん、うちに奏し侍りてをと申させ給ふをりにぞ、御けしきいとよくならせ給ひにける、さて殿うちにまゐらせ給ひて、大宮にもうちにも申させ給ひければ、いかゞはきかせ給ひけん、このたびの東宮には式部卿の宮○敦康親王　ほと○ほとハをとノ誤ナラン　こそはおぼしめすべけれど、一條院のはかゞしき御うしろみなければ、東宮にたうだいをたてたてまつるなりとおほせられしかば、これもおなじ事なりとおぼしさだめて、寛仁元年丁巳八月五日こそは九さいにて、三宮○後朱雀　東宮にたゝせ給ひて、○中略　寛仁三年己未八月廿八日、御とし十一にて御元服せさせ給ひしか、さきの春宮○敦明　をば小一條院と申、○中略　小一條院わが御心もてのがれ給へる事はこれをはじめとす、○中略　この院のかぐおぼしたちぬる事、かつは殿下の御報のはやくおはしますにおされ給へるか、又おぼくは元方民部卿の靈のつかうまつりつるなり、○中略　事のやうだいは、三條院のおはしましけるかぎりこそあれ、うせ給ひにけるのちは、よのつねの東宮の御やうにもなく、殿上人などまゐりて御あそびせさせ給ふや、もてなしかしづき申人などもなく、いとつれ〳〵にまぎるゝかたなくおぼしめされけるまゝに、心やすかりし御ありさまのみ戀しく、ほけ〳〵しきまでおぼえさせ給ひけれど、三條院おはしましつるかぎりは、院殿上人などもまゐりや、御つかひも云げくまゐりかよひなんどするに、人目も云げく、よろづなぐさめさせ給ふを、院うせおはしましては、世中ものおそろしく、おほぢの往來もいかゞとのみわづらはしくふるまひにくきにより、宮司などだにもまゐりつかうまつる事もかたくなりゆけば、まして げすの心はいかゞはおらん、とのもりづかさの云もべもあさぎよめつかうまつる事もなければ、庭のくさも云げりまさりつゝ、いとかたじけなき御すみかにておはします、まれ〳〵參りよる人々は、よにきこゆる事とて、三宮かく